

# サル対策あれこれ

サルは昼間に、群れで行動し、人の目につきやすいことから、直接追い払うための道具などが開発されています。ここではそれらのサル対策について紹介します。

## 追い払いグッズ ひとしくん

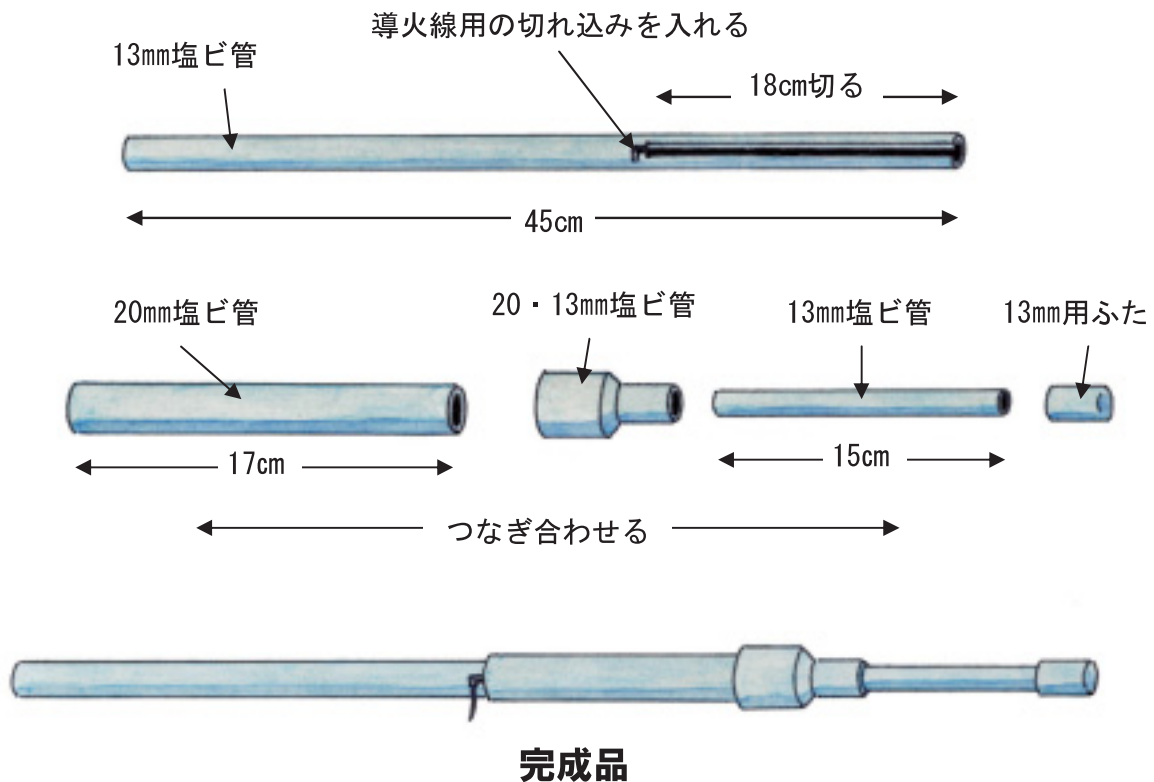
「ひとしくん」は、奈良県果樹振興センターで開発されたサルの追い払いグッズで、農地に出てきたサルに向けてロケット花火を発射するための道具です。ロケット花火を塩ビ管に入れて発射することにより、女性でも怖がらず、サルに向けて確実に発射できるように作られています。



発射しているようす

## ひとしくんの作り方（例）

※長さなどは使用するロケット花火に合わせて調節してください。  
火事の原因にならないように注意してください。乾燥している時期や風の強いときなどは使用しないようにしましょう。



## 打ち上げ花火を使う

追い払いに打ち上げ花火を使用する方法です。サルに花火を当てることを目的とするのではなく、大きな音をさせることにより、サルを追い払います。

打ち上げ花火を使用することにより、単発ではなく連続的に音を出すことができ、香川県では、この方法により追い払いの成果を上げています。しかし、花火の価格が高いのが欠点です。



追い払いのようす  
(第10回四獣協現地検討会 in香川)

## サルの接近警戒警報システム



サルの警報システム  
(第10回四獣協現地検討会 in香川)

サルは群れで行動するため、主要なメスザルに発信機をつけることにより、農耕地へ近づいたことがいち早く分かり、対策に結びつけることができます。この方法は、四国では香川県で導入されています。

欠点は、1. 発信機の電池が切れると、他のサルに再び発信機をつけなくてはならない、2. 発信機をつけたサルがいなくなると、群れの行動が把握できなくなる。3. 導入に際して非常に高価である、ことがあげられます。

## モンキードック

サルが出てきたとき、犬に追わせようという方法です。犬を使うことで、サルを追う労力が減り、人間が入れない場所までサルを追う事ができます。この方法は、徳島県でも導入に向けて訓練を開始している市町村があります。



## さまざまに工夫をこらす



防護施設を設置する際、問題となるのは設置する金額の面です。また、実際設置してみても、最初のうちには効果があったが、そのうちに動物に入られるようになったという声もよく聞きます。これらのことは、ちょっとした工夫で解決できます。

## いくつかの方法を組み合わせる



防風ネットとトタンなどを組み合わせた例

防護施設にはそれぞれ一長一短があります。しかし、いくつかの方法を組み合わせると、お互いの欠点を補うことができます。左の写真では、防風ネットとトタンを組み合わせています。ネットだけでは農作物が動物から直接見えますが、トタンを設置することで見えなくなっています。また、二重になっていることで、動物の侵入がより難しくなります。

## いろいろな資材を利用する



メタルフォーム防護柵

防護柵などを設置するさい、市販品を利用せず、身の回りにある資材を利用することで安価に設置できます。左の写真は、海陽町川東地区に設置されている防護柵です。メタルフォームという鉄製のコンクリート枠を再利用したもので、これを3枚重ねて使用しています。そのためイノシシも持ち上げず、また、目隠し効果も高いため、シカ・イノシシ被害に高い効果をあげています。



## 設置後の注意点

防護施設は、設置後に管理をしっかりする必要があります。管理をおこたると、動物が農地に侵入する原因になります。

しっかり防護施設を管理して、効果あるものにしましょう。

### ○下草刈りをしっかりとしよう

電気柵は、下草が伸びて電線に接触すると漏電して電圧が下がります。そうすると電気柵としての効果はありません。また、農地周辺の草をこまめに刈ることにより、動物の隠れ場所を減らすことができます。



電線が草に接触している

### ○補修や電圧チェックはこまめに

電気柵は、設置方法が悪いと、漏電したり電流が流れなかったりします。そうすると電気柵は意味がありません。そうならないために電圧チェックをこまめに行いましょう。他の施設でも、壊れた場所をこまめに補修することで、そこからの侵入が防げます。



電圧チェックはこまめにしましょう

### ○見回りをこまめにしよう

農地周辺をこまめに見回することは、施設を確認するうえで大変重要です。それだけではなく、人が絶えず農地周辺に行くことで、動物にプレッシャーを与えられます。常に農地周辺に行くことを心がけましょう。



被害を防ぐには見回りが大事です

### ○農閑期の管理も重要です

農作物がない時期でも動物は農地に来ています。かえって、農閑期は人の出入りが減り、動物が農地に近づきやすくなっているのです。農閑期に動物をよせてしまうと、農作物の被害につながります。農閑期でも、動物のえさをなくすなど農地を管理しましょう。



冬にも動物は来ています